



大成ロテック 西田 義則社長

2022年は、原油高、円安による資材高騰の影響を受けた。取り巻く環境は厳しいものの「利益回復策を打ち出し、工事、工場、支社、本社で強力に実行して、創業者の大倉喜八郎翁の『責任と信用』『進一層』の精神で、目標を達成する」と力を込める。

来期は、新中期経営計画の最終年度であり、大成建設グループ

グループ連携で市場狙う

プが創業150周年を迎える。V字回復を果たすためにも「今期、繰越工事の確保に努め、来期の売上拡大を目指すほか、ベトナムでの再生アスファルト合材事業を事業化させたい。併せて新材料・新技術の開発にも注力する」方針だ。

さらに「橋梁補修、トンネルリニューアルなど、本業周辺の市場に、大成建設とのJVで参

新たな取り組みでは、DX（デジタルトランスフォーメーション）関連でローラ転圧の自動化、出来形、品質管理のデジタル化を目指している。

大成建設と連携し、埼玉県幸手市に「大成建設グループ次世代技術研究所」の施設建設工事に23年度から着手する予定だ。

「植物由来の樹脂であるリグニンを利用したカーボンニュート

入を図るなど、グループの連携強化で市場を狙う」と先を見据える。

また、大倉翁の生誕地である新潟県新発田市の石川川での中小水力発電事業が、今春の着工、24年の運転開始を予定している。

ラルなアスコンやCO₂を固定させたカーボン・プール・コンクリートの早期の実用化を目指す」ほか、太陽光発電舗装を構内に設置し、早期の実用化を目指すと共に「無線給電舗装」の早期実用化も目指す。

働き方改革では、22年10月に

人事部から「労働時間の縮減に向けた取り組みの徹底について」を全従業員に周知するなど、さまざまな取り組みを進めている。「DXなども通じて、創意工夫で業務を改善するほか、手戻りの防止などのため、社員間のコミュニケーションの活性化を図る」としている。

カーボンニュートラルに向けては、「22年6月に札幌中央アスコンで、燃料のカーボンオフセットLPガスへの転換、グリーン電力の採用、ダウンサイジングと省エネ機器による高効率化、また、中温化合材製造装置により、合材製造に係るCO₂排出量のカーボンオフセットを実現した。工場のガス化は7工場目であり、今後も50年カーボンニュートラルの実現に向けた動きをより一層加速させたい」と話す。